

9 生涯学習

子どもたちの学びや成長を支える生涯学習

【方向性】

急激な社会の変化に伴い、子どもたちが予測困難な課題に直面しても、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動することのできるよう、新たな学びへと進化することが期待されている。これからの学校と地域は、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を共有し、子どもたちが未来の創り手となるために、必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて連携・協働していくことが重要である。

【課題】

(1) 生涯学習社会を担う子どもたちの育成

子どもたちが生涯にわたって能動的に学び続けていくためには、①生きて働く「知識及び技能の習得」、②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等の育成」、③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等の涵養」の資質・能力の育成が求められている。特に、学校では「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業の改善を行うことで、質の高い学びや将来につながる学びの実現が期待できる。さらに、知・徳・体の調和のとれた発達を促すためにボランティア活動や様々な体験活動を取り入れることは、学習の成果やさらなる学習への関心を高め、これからの時代を生き抜く力の育成に有効である。

(2) 「開かれた学校」から「地域とともにある学校」への転換

これまでの「開かれた学校」からさらに一歩進めて、地域でどのような子どもたちを育てるのか、何を実現していくのかという目標やビジョンを地域住民等と共有し、地域と一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校」への転換が求められている。また、学校や地域の実情に応じて、教職員と地域住民が互いに対話する「熟議」の場づくりを工夫するなど、「学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）」の導入や地域が学校と協働する体制として「地域学校協働本部」の設置が進められている。

(3) 「地域学校協働活動」に向けた取組

「地域学校協働活動」とは、地域の高齢者や成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を行う様々な活動である。地域と学校はパートナーとして、共に子どもを育て、共に地域を創るという理念に立ち、これまでの学校「支援」から「連携・協働」に発展させていくことが求められている。学校と地域の「連携・協働」の体制を整備するには、地域コーディネーターを配置し、コーディネート機能を強化することが不可欠である。地域コーディネーターが学校と地域の連絡調整を行うことで、より幅広い地域住民が、多様な活動に参画し、地域学校協働活動が継続的に展開できる。

(4) 校内推進体制の充実

生涯学習の推進は学校経営・学校運営とも深く関わり、職務内容も多岐にわたることから、担当者の適正配置や校務分掌への適切な位置付けが必要である。また、地域と連携・協働するには、教職員の十分な理解と体制づくりが不可欠である。校長のリーダーシップの下、地域連携教員や社会教育主事有資格者の見識を生かし、円滑な活動が展開できるようにしたり、地域連携チームを組織したりして、効果的・効率的に連携活動に取り組んでいくことが大切である。

【参考資料】

- ・「これからの学校と地域 コミュニティ・スクールと地域学校協働活動」 R02.3 文科省
- ・「地域学校協働活動 地域と学校でつくる学びの未来」 H30.3 文科省
- ・「小学校学習指導要領解説総則編 中学校学習指導要領解説総則編」 H29.7 文科省
- ・「地域とともにある学校づくり～学校支援ボランティアハンドブック～」 H28.3 ふれあい学習課
- ・「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について（答申）」 H27.12 中教審